

# 富水研だより

■ 19 ■

ISSN 1883-3047  
平成29年6月

富山県農林水産総合技術センター  
水産研究所 発行

〒936-8536  
富山県滑川市高塚364  
TEL076(475)0036  
FAX076(475)8116



アユ遡上調査に関する写真

調査の様子（左上）、海産遡上アユ（右上）、鱗数の計数（左下）、アユ漁解禁後の河川（右下）

## 目 次

本館の耐震補強工事完了のお知らせと新任のご挨拶 .....	水産研究所長 田子 泰彦	2
富山県で獲れる「ソウダガツオ」について .....	海洋資源課 南條 暢聡	3
キジハタの特産品としての可能性 .....	栽培・深層水課 町 敬介	5
人事異動に係る挨拶 .....		7

## 本館の耐震補強工事完了のお知らせと 新任のご挨拶

所長 田子 泰彦

平成29年4月1日付けで富山県農林水産総合技術センター水産研究所長（海洋資源課長兼務）を拝命しました田子です。今後とも、よろしく願いいたします。

さて、昨年度、私が副所長の時には、水産研究所の本館の耐震補強工事という、めったにない大きなイベント？が半年以上に渡って行われました。板で仕切られた狭くなった部屋で、時には激しい振動と埃が舞う中に、職員は仕事をしなければなりません。特に廊下はひどく、ビニールシート等で養生された中を、それぞれヘルメットをかぶらなければ危なくて歩けないような状況もありました。工事のミスで、勤務中に何度か所内の電源が突然落ちたり、夜中に火災報知機器が誤作動して職員が駆けつけなくてはならないこともありました。

また、こういう時には事は重なるもので、冷房装置（チラー）の取替、ファンコイルの修繕や取替、地下オイルタンクの埋設と地上タンクの新設、非常用照明器具の取替など、機器等を新たにすべく4つの指定修繕工事も行いました。耐震補強工事が始まった時には、この先どうなるのかと心配にもなりましたが、何とか無事に終えることができたので、これも皆様のご協力に加え、県庁の関係各課や工事関係者のお蔭と、心より感謝しているところです。

「断捨離」という言葉が一時流行しましたが、工事に合わせて多くの不要な物を捨てましたし、新しい空間（部屋）もでき、廊下の天井等も真新しくなりました。多少の辛苦を味わいましたが、何か生まれ変わったような気がしないでもありません。

昨年は工事の関係で研修室等が使えなくて、研修、視察、見学等を申し出られた皆さまのご希望に添えないこともありました。今年度は「冷暖房完備」の中で、快適に研修等が受けられる（と信じている）ようになり

ました。人事異動があつて、新たな顔ぶれもありますので、少しリニューアルした感のある水産研究所をお気軽に訪れてみてください。

さて、水産物の安定供給と水産資源の持続的な利用を図るために、水産研究所は①水産資源の適切な利用（資源評価・管理）、②水産資源の維持・増大のための技術開発（つくり育てる漁業）③水生生物の生息環境の保全（環境保全）の3つの推進目標を掲げています。これらに加えて、低迷する沿岸漁獲量の中、今後は内水面のみならず海面においても、養殖業（魚類・藻類）の振興に、力を注ぎたいと思っております。

数多くある研究項目の中でも、平成29年度には、ホタルイカ・シロエビ・ベニズワイ・マイワシの資源評価と管理、ブリの回遊経路の解明、キジハタ・アカムツの種苗生産技術開発および富山湾漁場環境総合調査の取り纏めに重点を置きたいと考えております。これらの研究成果については、まとまり次第、研究成果発表会、研究報告、水研だより等で、皆様にできるだけ早くお知らせしたいと思っております。

最後に、水産研究所が喫緊に取り組まなければならない課題として、「老朽化した調査船『はやつき』（19トン）の代船をどうするか」があります。単に「古くなったから新しい船にする」というだけでなく、「新しい役割」や「新たな機能」を付加して、漁業者の方々のみならず、広く県民の皆さんのお役に立てるような調査船の姿を模索してゆきたいと考えております。

これらの多くの課題に、行政とも強く連携して、しっかりと前向きに対処してゆきたいと考えておりますので、漁業者の皆様はじめ、関係する方々のご指導、ご協力、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

## 富山県で獲れる「ソウダガツオ」について

海洋資源課 主任研究員 南條 暢聡

富山県の「カツオ」と聞くと少し不思議に感じる人がいるかもしれませんが、実は富山県は日本でも有数の「カツオ」の漁獲量を誇っています。ただし、それは鰹節やたたき等で有名ないわゆる「本鰹」と呼ばれているものではなく、「ソウダガツオ」という別種についての話です。

ソウダガツオという名前は、「マルソウダ（学名 *Auxis rochei*）」と「ヒラソウダ（学名 *Auxis thazard*）」という2種類の魚の総称として利用されることが多いのですが（図1）、富山県で漁獲されるものはほとんどがマルソウダになります。マルソウダは世界中の温帯・熱帯海域に分布しており、日本周辺では北海道北部を除く全国各地の沿岸から沖合に生息しています（益田ら，1984；安倍・本間，1997）。都道府県別の漁獲量については、マルソウダとヒラソウダを合わせたソウダガツオ類として農林水産省から公表されており（表1）、漁獲量が最も多い高知県をはじめとして太平洋側での漁獲が多い中で日本海側の富山県が高知県に次ぐ2番目の漁獲量となっています（2014年は4番目でしたが）。

富山県でのマルソウダの漁獲は主に定置網により行われており、夏季の小規模来遊群と秋季の大規模来遊群を漁獲しています（図2）。夏季に来遊してくる魚のサイズは30cm台が主体となっていますが、秋季の魚は30cm台と20cm台の2群に分かれており、後者のサイズについては「ローソクガツオ」等とも呼ばれています（図3）。一方、高知県では周年に渡ってマルソウダが出現することが知られており、主に定置網や曳縄釣りにより漁獲されています。また、漁獲される魚も20cm未満の小型個体から30cm台後半の大型個体まで幅広いサイズとなっており（新谷，2001）、漁獲量の多い2県ですがその漁獲パ

ターンやサイズには違いがみられます。

マルソウダの主な利用方法としては、生節や宗田節の原料、また一部で鮮魚としての利用もありますが（安倍・本間，1997）、富山県では肥料や飼料として主に利用されるた

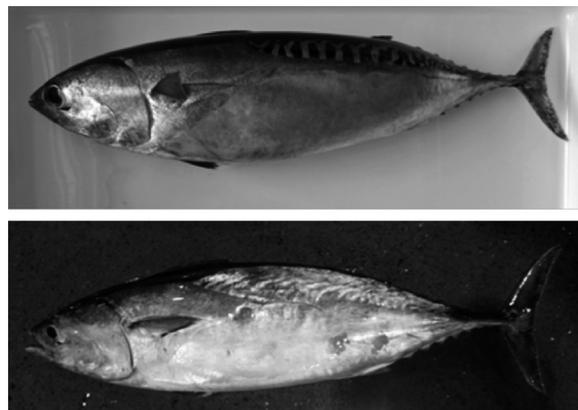


図1 マルソウダ（上）とヒラソウダ（下）

表1 都道府県別・年別ソウダガツオ類漁獲量  
(農林水産省漁業・養殖業生産統計)

	2015年		2014年		2013年		2012年		2011年	
	高知	富山								
高知	7,673	2,079	7,224	1,557	7,840	1,934	9,080	2,902	7,479	2,937
富山	2,079	2,079	1,557	2,079	1,934	2,079	2,902	2,902	2,937	2,937
鳥根	944	929	527	487	1,852	1,064	1,778	1,746	1,298	1,236
長崎	929	929	487	487	1,064	1,064	1,746	1,746	1,236	1,236
千葉	488	446	426	410	838	836	1,690	1,300	1,177	851
三重	446	444	410	393	836	604	1,300	1,051	812	778
鹿児島	444	431	393	285	604	471	1,051	1,019	778	778
宮城	431	378	285	272	471	369	1,019	1,011	778	592
神奈川	378	313	272	246	369	337	1,011	931	592	377
石川	313	313	246	246	337	337	931	931	377	377
全国	15,941	13,114	13,114	13,114	18,706	18,706	27,195	27,195	19,708	19,708

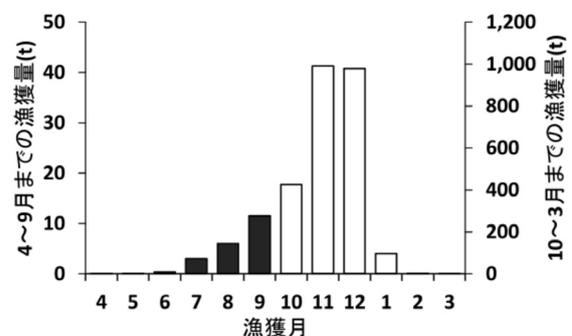


図2 2007～2016年におけるマルソウダの月別平均漁獲量（黒：4～9月；白：10～3月）

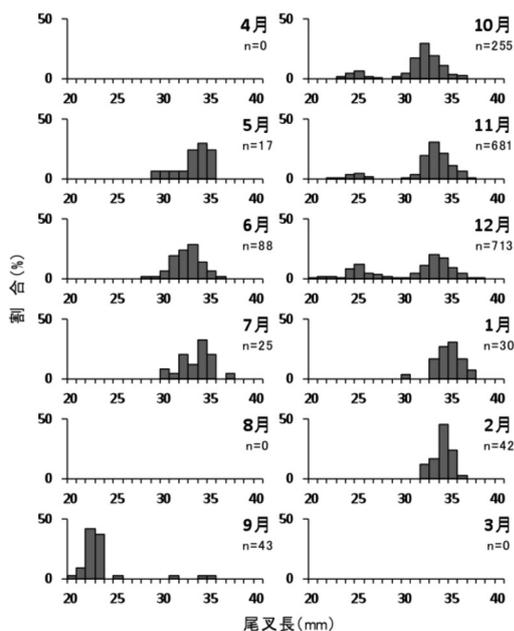


図3 2011～2016年におけるマルソウダの月別尾叉長組成 \*nは測定個体数

め、単価は非常に低いといわれてきました。しかし、近年は単価が上昇傾向にあり、年間生産金額も大きくなってきていることから秋の重要な漁獲対象種となってきています(図4)。

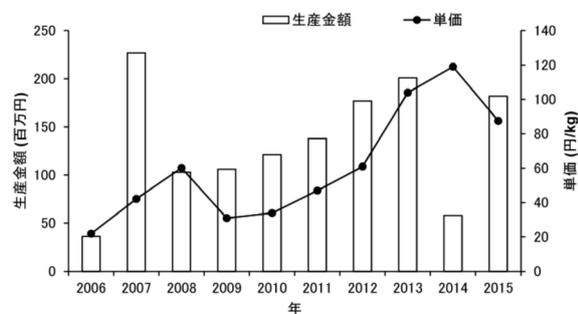


図4 富山県のソウダガツオ類生産金額と単価 (農林水産省漁業・養殖業生産統計) \*単価=生産金額(円)/漁獲量(kg)とした

富山県におけるマルソウダの年間漁獲量(ここでは漁期を考慮して年度単位で集計)は、1970年代から90年代前半までは500～2,500トンの間で増減していましたが、90年代後半に増加傾向に転じ、2000年代に入ると1,500～5,400トンの間で推移するようになりました。しかし、2010年以降には減少傾向に転じ、2014年のような極端に少ない漁獲量

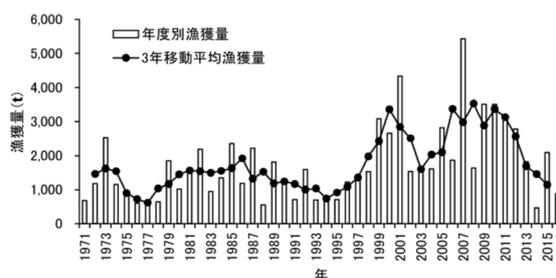


図5 富山県におけるマルソウダの年度別漁獲量

を示す年もみられるようになりました(図5)。マルソウダの漁獲量については長期的な変動傾向を示すことが指摘されており(梶, 2015)、富山県の漁獲量についても3年移動平均(当該年と前後1年分の平均値)でみると、漁獲量が少ない期間と多い期間に分かれる傾向がありました。そして、近年は漁獲量の少ない期間へ再び移行してきた可能性があります。

富山県のマルソウダがこのような漁獲傾向を示すことについては、日本海側におけるマルソウダの生態的知見が非常に少ないため、うまく説明できない状況にあります。そこで、水産研究所では食品研究所と共同で「マルソウダは何のために富山湾へ来遊するのか?」というテーマで調査を開始しました。今後、良い研究成果を報告することができるように頑張っていきたいと思っております。

【引用文献】

安倍宗明, 本間昭郎. 「現代おさかな辞典 漁場から食卓まで」株式会社エヌ・ティー・エス, 東京. 1997; 1196pp.  
 梶 達也. 高知県海域におけるマルソウダ漁況の変動と気候のレジームシフト. 黒潮の資源海洋研究 2015; 16: 65-73.  
 益田 一, 尼岡邦夫, 荒賀忠一, 上野輝彌, 吉野哲夫. 「日本産魚類大図鑑 解説」東海大学出版会, 東京. 1984; 466pp.  
 新谷淑生. 高知県太平洋海域におけるマルソウダの年齢, 成長, 成熟および寿命. Nippon Suisan Gakkaishi 2001; 67: 429-437.

# キジハタの特産品としての可能性

栽培・深層水課 主任研究員 町 敬介

皆様は富山の水産物といえば何を思い浮かべますか？「ブリ（冬）」、「ホタルイカ（春）」、「シロエビ（春～秋）」、「サクラマス（春）」、「高志の紅ガニ（ベニズワイ）（秋～春）」、「魚津寒ハギ如月王（ウマヅラハギ）（冬）」、「越のわたり蟹（ガザミ）（秋）」等々、多くの魚介類が挙げられます。加えて、当所が種苗生産に成功したアカムツが、有名テニス選手の「食べたい」という一言で大流行しています。しかし、富山県では夏～秋の美味しい白身魚が少ないように思われます。有名なアカムツは高額すぎて私には検討の余地すらありません。では富山には、夏～秋に一押し魚はいないのでしょうか？いえいえ、皆さん安心してください、ちゃんといますよ。

そうです、富山県には「キジハタ」がいます（図1）。平成25年度に種苗の大量生産に成功し、平成27年に開催された第35回全国豊かな海づくり大会では、天皇、皇后両陛下に御放流いただきましたあの「キジハタ」です。



図1 キジハタ

キジハタは、数あるハタ類の中で最も味が良いとされ、関西方面では5,000円/kgで扱われることもある高級魚です。また、アジア圏では最高級魚として扱われ、2～3万円/kgというとんでもない話も聞かれます。そんなキジハタは現在、瀬戸内海を中心に盛んに種苗放流が行われており、放流に併せて資源管理やブランド化が積極的に推進されています。

## 富山県のキジハタ

富山県水産情報システムによると、平成24～28年における県内のキジハタの年間漁獲量は13.7～40.6tでした。特に、晩夏～秋の海が荒れた時には、関西では「高級魚」と騒がれているキジハタが大量に漁獲されます。しかし、富山駅前の居酒屋などでは一部しか扱われておらず、県民の皆様が会える機会は少ないです。それでは、富山のキジハタは一体どこに行くのでしょうか。

## 関西では高級魚、富山県では？

キジハタの漁獲量が多い黒部、魚津及び氷見市場の漁業関係者に話を伺うと、キジハタを扱う多くの方から出る言葉が、「関西に出荷」でした。やはり単価の高い関西では、キジハタの需要は多いようです。しかし一方で、「県内に出荷」という言葉はあまり聞かれませんでした。また、関西に出荷している仲買人からは、「キジハタは関西に出してもそれほど儲からない」という気になる話も聞かれました。

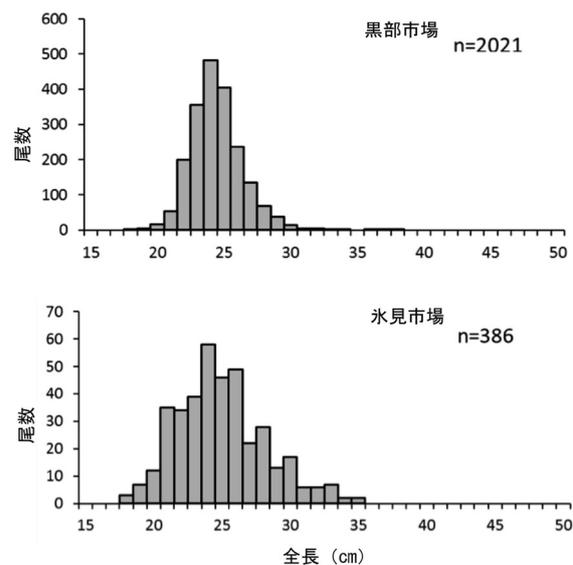


図2 平成27年度の黒部市場と氷見市場におけるキジハタの全長組成

図2に平成27年度の黒部市場及び水見市場で水揚げされたキジハタの全長組成、図3に同年度の聞き取り調査による各市場におけるキジハタのサイズ別のセリ値を示しました。

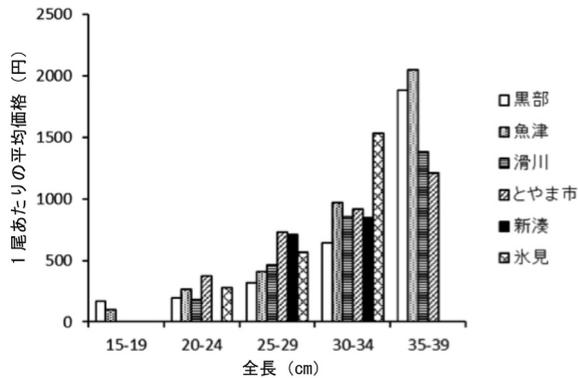


図3 平成27年度の聞き取り調査による各市場におけるキジハタのセリ値

県内では、キジハタは全長約25cmを中心に漁獲されていますが、25cm未満のキジハタは、1尾あたり500円未満、25～30cmでも1尾500円前後と、非常に安価に取引されていました。

なぜ富山県では価格が安いのでしょうか。その要因についてキジハタの漁獲の多い黒部市場や魚津市場で聞き取りを行うと、①輸送費がかかる、時期が遅い、サイズが少し小さいなどの理由により、需要が多い関西向けには高値が付きにくい、②秋に大量に漁獲された際に漁獲量が需要を上回る、③県内での認知度が低い、などの要因が見えてきました。

先述のとおり、キジハタは瀬戸内海周辺で種苗放流、資源管理、ブランド化等が積極的に行われていることから、今後は瀬戸内海周辺のキジハタ資源が増加する可能性があります。現在のように、キジハタの需要を他府県に依存している状態では、今後富山県のキジハタがさらに安くなることも考えられます。

### キジハタの特産品としての可能性

現在、富山県のキジハタは本来あるべき価値より低い価格で取引されています。しかし、逆に考えれば、秋に大量に漁獲されるという特性を活かすことで、他ではできない価格でキジハタを県内に提供できるという強みにな

ります。味は抜群に美味しいことを考えると、キジハタは秋の新たな味覚として特産品にするにはぴったりの食材ではないでしょうか？例えば、漁獲がまとまるメリットを活かすなら、他府県のように大きいサイズをブランド化するのではなく、例えば短期ストック等による安定供給で、幻の高級魚を手の届く価格で食べられるようにし、人気の高い関西方面やアジア圏からの旅行者向けに提供するといった取り組みができれば、どこも真似ができない新たな富山県の名物が誕生するかもしれません。また、県内需要が創出できれば、キジハタの値段は本来の値段に近づき、漁業関係者の所得向上にも繋がると考えられます。

現在、富山県でキジハタは、刺身、塩焼き、煮つけ等にされていますが、富山県で漁獲される25cmサイズは刺身には小さく、塩焼きにも不向きです。一方で、中華料理店では、同サイズのことを姿蒸しにして大変人気があると聞きます(図4)。このように、漁獲サイズに合った食べ方の提案や普及が今後必要になるかと思えます。



図4 キジハタの姿蒸し

### 終わりに

最後になりましたが、現在はキジハタ資源の維持・増大を目指し、種苗の大量生産技術の開発、種苗の放流効果の調査、放流適地の探索等を実施しております。これらの取り組みが、今後の富山県のキジハタを盛り上げていくための一助となるよう尽力したいと思いますので、今後も関係者の皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 人事異動に係る挨拶

### 退職

平成29年3月31日をもって、水産研究所を最後に退職いたしました。

昭和54年4月に富山県職員として採用されてから、栽培漁業センター、水産試験場、水産漁港課、環境政策課、水産公社でお世話になり、平成23年からは、ここ水産研究所で勤務させていただきました。実を言いますと、昨年の平成28年3月31日に、一旦、定年退職したのですが、その後の1年間、引き続き、所長として勤務させていただきました。

この間、栽培漁業の推進、漁場環境の保全、生産基盤の整備などに関する調査や事業を中心に、本県水産業の発展・振興に微力ではありますが、関わらせていただきました。この38年間には、良くも悪くも、思い出深い出来事が数多くありましたが、特に、平成27年10月に開催された「第35回全国豊かな海づくり大会」でご来県された天皇、皇后両陛下に、当所の研究成果をご紹介させていただいたこと、生産したアカムツ稚魚をご覧いただいたことなどは、とても感慨深く、今でもしっかりと脳裏に焼きついている忘れ難い記憶で

平成29年3月末日をもちまして定年退職いたしました。平成元年に採用されて以来、退職を迎えるまで、無事勤められましたのも、漁業関係者の皆様、職員の皆様、OBの皆様など、多くの方々のご指導とご鞭撻のお蔭と

平成5年4月より現富山県水産研究所、漁業調査船立山丸に勤務し、平成29年3月末をもって定年退職致しました。先代の立山丸より、現在の立山丸までの長きにわたり、多くの方々のお蔭によりこの日を迎えられまし

前所長・内水面課長 若林 洋

す。

このように永きに亘って勤めさせていただけたのも、先輩方や同僚の皆様方をはじめ、漁業関係機関や漁業者の方々の心温かい寛容なるご指導・ご協力のお陰と心より感謝しております。

所員の方々には、水産研究所が漁業関係者に信頼される機関であるために、拠って立つところは富山湾をはじめとした水圏であり、生産の場であり、その目線の先の生産を担う漁業関係者とそれを支える県民を忘れず、常に、期待に応えるための努力を続けていきたいと思っております。

最後に、今後とも、より一層、水産資源の持続的利用が図られ、富山県や我が国の水産業が発展していくこと、そして関係する全ての皆様方のご活躍とお幸せを祈念するとともに、漁業関係機関や漁業者の方々には、引き続き、「富山県水産研究所」を宜しく願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

永い間、ありがとうございました。

前立山丸船長 立山丸 主任専門員 浜住 洋一

深く感謝申し上げます。

なお、引き続き当研究所で主任専門員として勤めさせていただきますので、関係者の方々には、今後ともご指導とご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

前立山丸機関長 立山丸 主任専門員 森田 満

た。

尚、引き続き立山丸の機関員として業務に携わる事となりましたのでよろしくお願い致します。

**前立山丸一等機関士 水産漁港課つるぎ 主任専門員 幅 寿悦**

平成2年に水産試験場「立山丸」に採用されて以来、水産漁港課「つるぎ」～「立山丸」～「はやつき」～「立山丸」と勤務してきましたが、皆様方の御蔭をもちまして平成29年3月末をもって、無事に定年を迎えることが

できました。

なお、4月1日から再任用で水産漁港課「つるぎ」に勤務することになりました。どうか今後とも宜しく願いいたします。

**前立山丸甲板員 関口 裕市**

平成29年3月31日をもって退職いたしました。平成3年から26年間、立山丸の船員として勤務させていただきました。これまで

無事勤められましたのも皆様のご指導、ご鞭撻のおかげであり、深く感謝いたします。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

**前立山丸嘱託 九澤 真司**

この度3月31日付けで、水産研究所を退職いたしました。1年間という短い間でしたが調査船立山丸の船員として、富山県の水産研究にたずさわれた事を非常に嬉しく思ってお

ります。また、これまで無事務められたのも皆様のご指導、ご鞭撻のおかげと深く感謝しております。ありがとうございました。

## 着 任

平成29年4月1日付けで水産研究所に異動となり、内水面課長を拝命しました。水産漁港課振興係在籍中は、第5種共同漁業権の切替やサケふ化放流事業等で内水面漁業関係者の方々には大変お世話になりました。この場

**内水面課長 村木 誠一**

を借りて厚く御礼申し上げます。引き続き、内水面漁業関係の業務に携わることとなりましたので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

食品研究所では漁獲物の鮮度調査などに携わり、漁業関係の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。今年度からは内水面課でサクラマスやアユ、サケ等の調査に携

**内水面課 主任研究員 野村 幸司**

わります。何かと関係の皆様のお手を煩わせることも多いかと思いますが、水産業振興のお役に立てるよう研究に取り組みたいと思いますので、何卒よろしく願い申し上げます。

4月1日付けで、水産漁港課から水産研究所へ異動となりました。水産漁港課では、栽培漁業や水産多面的機能発揮対策事業、漁協青年部・女性部などを担当し、関係者の皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

**栽培・深層水課 主任研究員 飯野 浩太郎**

水産研究所では、主にキジハタやヒラメ、アワビの放流効果調査を担当しております。微力ではありますが、引き続き富山県の水産業に貢献できるよう頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

**立山丸 甲板長 水林 伸夫**

4月1日付けで、水産漁港課漁政係「つるぎ」から水産研究所海洋資源課「立山丸」に異動となりました。水産漁港課在籍中は関係者の皆様に大変お世話になったことを、この場をお借りして深くお礼申しあげます。

水産研究所での勤務は、H27年度に転出し

て以来2年ぶりの勤務となります。微力ながら富山県水産業の発展の為、皆様のお役に立てるよう努力してまいります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

**立山丸 嘱託 山田 清志**

平成29年4月1日付けで立山丸嘱託職員となりました。これまで乗船を含めた水産関係の経験は少なく自称「バカ真面目だけがトリエ」の私であり、至らぬ所も多く有りますが、富山県水産業の一助となるよう一生懸命に頑

張りますのでどうか宜しくお願い致します。

少しだけ自己紹介をさせていただきますと、プロジェクトXという番組が好きであり、また、美術品の収集に興味があり、色々と研究中です。

**立山丸 嘱託 道法 真悟**

皆さんはじめまして。4月7日付けで立山丸嘱託職員に採用されました道法真悟（どうほう しんご）と申します。広島県から来ました。初めて富山を訪れ、4月でも山に雪が積もっていることに驚きました。船員として

はまだまだ未熟ですが、1日でも早く仕事に慣れるように精進し、立派な船員になれるよう頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**転 出**

このたびの人事異動により県庁水産漁港課に配属となり、漁港の管理に関する業務等の担当となりました。短い間ではありましたが、在籍中は、アユ、サクラマスおよびサケの資

**水産漁港課 主任 瀬戸 陽一**

源調査に関する研究に携わり、その間、多くの方々大変お世話になりました。この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

**水産漁港課 主任 飯田 直樹**

平成20年4月から29年3月まで、9年間の長きにわたり水産研究所でお世話になりました。水質や底質などの環境に関する研究、ヒラメやアワビの放流効果に関する研究、さらには、新魚種種苗生産技術開発としてアカムツの種苗生産技術開発にも携わることができました。どの研究にも思い入れが深く、気がつけば、あっという間の9年間でした。その

間、多くの漁業者の方々、水産関係者の方々などに支えられ、なんとか今日までやってこられました。この場を借りてお礼申し上げます。今後は、水産漁港課振興係で、栽培漁業関係、漁場環境関係、水産多面的事業などについて担当いたします。これからも富山の漁業振興のため邁進いたしますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 【平成29年4月1日付け水産研究所職員の人事異動について】

氏名	新所属	旧所属
<b>転入</b>		
村木 誠一	内水面課長	水産漁港課振興係主任
野村 幸司	内水面課主任研究員	食品研究所主任研究員
飯野浩太郎	栽培・深層水課主任研究員	水産漁港課振興係主任
水林 伸夫	主任（立山丸甲板長）	水産漁港課主任（つるぎ）
山田 清志	嘱託（立山丸甲板員）	新規採用
道法 真梧	嘱託（立山丸甲板員）	新規採用
<b>転出</b>		
瀬戸 陽一	水産漁港課漁港係主任	内水面課主任研究員
飯田 直樹	水産漁港課振興係主任	栽培・深層水課主任研究員
<b>所内異動</b>		
田子 泰彦	所長・海洋資源課長	副所長・海洋資源課長
渡辺 健	副所長・栽培・深層水課長	栽培・深層水課長
島倉 清弘	副主幹（立山丸船長）	副主幹（立山丸一等航海士）
日又 伸夫	副主幹（立山丸機関長）	副主幹（立山丸通信長）
金谷 文樹	係長（立山丸一等機関士）	主任（立山丸機関員）
谷内 正尚	主任（立山丸一等航海士）	主任（立山丸甲板長）
町 敬介	栽培・深層水課主任研究員	栽培・深層水課研究員
加藤 繭	栽培・深層水課主任研究員	栽培・深層水課研究員
堀 大志	主任（立山丸機関員）	技師（立山丸機関員）
石川 辰巳	技能主事（立山丸甲板員）	業務技師（立山丸甲板員）
長倉 諒	技師（立山丸甲板員）	嘱託（立山丸甲板員）
<b>退職（平成29年3月31日付け）</b>		
若林 洋	退職	所長・内水面課長
浜住 洋一	主任専門員（立山丸甲板員・再任用）	副主幹（立山丸船長）
森田 満	主任専門員（立山丸機関員・再任用）	副主幹（立山丸機関長）
幅 寿悦	水産漁港課主任専門員（つるぎ・再任用）	副主幹（立山丸一等機関士）
関口 裕市	退職	副主幹（立山丸甲板員）
九澤 真司	退職	嘱託（立山丸甲板員）

**表紙の写真**

県内の河川で4月からアユ漁の解禁前までの間に実施しているアユ遡上調査に関する写真です。この調査では、投網でアユを採捕して（写真左上）アユの遡上状況を把握するとともに、アユの鱗数を計数（写真左下）して海産遡上アユ（写真右上）と放流アユを判別します。アユ釣りは6月16日に解禁となりましたが、今年の実績は「平年並みあるいは平年よりやや良い」と予測しており、遡上調査では例年よりも良い結果が得られていることから、今年のアユ漁は期待しても良さそうです。

**編集後記**

今回はソウダガツオやキジハタといった県民に比較的馴染みが薄い魚種を取り上げました。水産研究所では、このような魚種についても資源生態学的な調査・研究を行っています。今後もさらに研究を進めていくため、市場などの現場で調査を行っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。